

事業番号	10
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	ポルトガル語通訳員派遣事業				担当課	学校教育課	
事業期間	開始年度	18年度	～	終了予定年度	担当係	学校教育係	
総合計画	めざすまちの姿	1人が育つまち					
	目標	② 生きる力を育む					
	成果指標	授業がわかると答える児童・生徒の割合			中間目標 (H27)	小90% 中80%	最終目標 (H32)
予算区分	一般会計	10 款 教育費	1 項 教育総務費	3 目 教育指導費			
	細事業	1005 教育指導関係経費					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象(誰のため)	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的(何のため)	外国人児童生徒の就学を支援したり、保護者と学校のコミュニケーションが円滑になることをねらう。						
内容(概要)	<p>○外国人児童生徒の多い学校に通訳員(3名)を配置(ポルトガル語3名)し、保護者と学校との連絡の際に通訳をしたり通知の翻訳をしたりする。また、授業で外国人児童生徒が日本語の理解が図られるように通訳する。</p>						
これまでの改善・見直しの状況	<p>18年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日8時間) 19年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日8時間) 20年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日8時間) 21年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日8時間) 白須賀小学校 通訳員 1名配置。(1日5時間) 22年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日7.15時間) 白須賀小学校 通訳員 1名配置。(1日5時間) 23年度 白須賀小・新居小 通訳員 1名配置(1日7.15時間) 岡崎小学校 通訳員 1名配置。(1日5時間) 24年度 鷺津小学校 通訳員 1名配置。(1日7.15時間) 白須賀小・新居小 通訳員 1名配置(1日7.15時間) 岡崎小学校 通訳員</p> <p>外国人児童生徒の外国からの編入、他市からの転校は、多くあり、日本の教育への理解が図られずに、不信感、不満感をもつ保護者も見られる。また、日本語の理解、学習内容の理解ができないため、学校生活で多くの困難を抱える児童生徒も多い。通訳員の配置により学校教育への理解がスムーズに図られるようになってきている。平成24年度からは、県の外国人児童生徒を対象とした相談員の派遣がなくなり、学校の要望に応じていくことが厳しい状態である。</p>						

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	3,484	3,484	5,585	(内訳) 人件費(非常勤職員報酬) 3,328
	決算	3,304	3,328		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	3,305	3,327		
職員人件費	1,101	1,171	2,387	人工	0.1人

3. 事業の評価

事業の実施状況

活動指標	内容	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
	学校教育課事業調査の中での事業についての満足度	%	目標	90	90	90
実績			100	100		
		目標				#DIV/0!
		実績				
	目標				#DIV/0!	
	実績					

平成23度 活動内容	ポルトガル語通訳員2名を白須賀小・新居小に1名、岡崎小に1名配置した。外国人児童生徒の保護者に学校教育活動の理解を図るため、文書の通訳を行ったり、教員と保護者が面談する場合に通訳をしたりした。また、外国人児童生徒が日本語の理解が図られずに学習について行けない場合には、学習支援をしたり、児童生徒と教員が意思疎通が図れない場合には通訳を行ったりした。				
課題・問題点 となった事項	未配置の学校で外国人児童生徒が1名でもいる場合には、指導の面、保護者対応の面で通訳員が必要になった。特に中学校は、高校入試の頃には保護者との相談に応じるという点で、通訳員の派遣依頼が集中した。				
どう対処したか	配置校の指導内容、時間を調整し、できるだけ依頼のあった学校への派遣に応じた。				
改善点	配置校の通訳員、担当教員と連絡を密にし、配置校での業務に与える影響を最小限にし、未配置校の派遣要請に応えるようにした。	効果額 H24-H23 (千円)	2,257千円		

自己評価	事業目的の 達成状況	外国人児童生徒の保護者に学校教育活動への理解を図るという点で大いに効果を発揮した。外国人児童生徒の学習や生活面での悩みに応じ、教員と外国人児童生徒の架け橋としての役割を果たした。学校からの本事業の満足度も高い。			
	※必要性 事業を廃止・休 止したときの影響	<ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒が日本語の理解ができずに、学習の理解が進まない。 保護者が学校の教育に対して分からない事柄が発生した場合に、学校と保護者をつなぐ役目を果たす通訳員がいないため問題が生じやすい。 			
	判定	A 継続	現行の内容で実施	事業主体	市
	判定理由	湖西市において外国人児童生徒は今後も在籍し、児童生徒、保護者への通訳が必要であるため			
今後の方向性	県の外国人児童生徒のための相談員の派遣は平成24年度からポルトガル語、スペイン語は要請できなくなった。外国人児童生徒の外国からの編入、他市からの転校は、増加傾向にあり、2名の通訳員でも足りない状態である。効果的な派遣を行い、対応していきたい。				